

〔日本書紀二皇極三〕三年六月、是月○中于時有謠歌三首○略 其三曰、烏麻野始備、倭例烏比岐例底制始比騰能於謀提母始羅孺伊弊母始羅孺母也○恐衍字

〔日本書紀通證二十九〕葛上郡有小林邑寄林臣

〔拾遺和歌集八〕清慎公月林寺にまかりけるに、をくれてまうできてよみ侍りける、

昔わがをりし桂のかひもなしつきの林のめしにいらねば

〔後撰和歌集七〕題玄らず

木のもとにをらぬ錦のつもれるは雲の林のもみぢなりけり

〔千載和歌集十七〕わづらふことありて、雲林院なる所にまかりけるに、人のとぶらへりければつかはしける、

此世をば雲のはやしにかどでして煙とならむ夕をぞまつ

前大納言實冬卿

良暹法師

〔夫木和歌抄林十二〕ときにはやし
さがのなるときはばやしのなのみしてうつろふいろに秋風ぞ吹

〔萬葉集十四〕相聞

阿良多麻能伎倍乃波也之爾奈乎多氏天由吉可都麻思自移乎佐伎太多尼、

右二首○一略遠江國歌

〔太平記二〕師賢登山事附唐崎濱合戰事

已唐崎ニ軍始タリト聞ヘケレバ、御門徒勢三千餘騎、白井ノ前ヲ今路ヘ向、本院ノ衆徒七千餘人、三

宮林ヲ下降、略○下

〔萬葉集七〕頭歌江林次完也物求吉白榜袖纏上完待我背